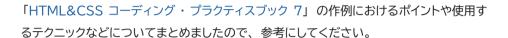
作例のポイント

Case Study Points



総括

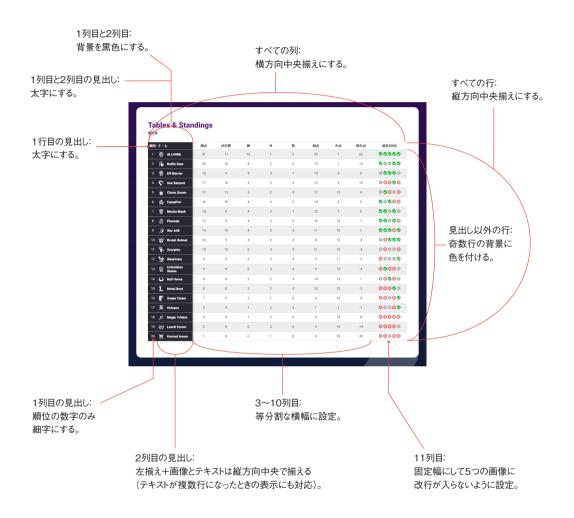
今回は、テーブルを含めてコンテンツの内容(画像やテキストの文字数・行数)が変わっても閲覧のしやすさや、デザインのバランスを変えないことが求められています。さらに、画面幅を変えても上記ルールを維持する形でレスポンシブにしなければなりません。これらをできるだけ手間をかけずに設定していくため、Flexbox、position、overflowを使いこなすことがポイントとなっています。





テーブルのデザインを整える

多くのデータを含むテーブル (表組み) は、きちんと表示を整えないと閲覧しづらくなります。カンプのデザインを実現しつつ、データの内容が変わっても崩れることがないように、次のようなポイントを押さえて表示を整えていきます。





レスポンシブテーブル その 1:横幅を可変にしてレスポンシブにする

テーブルは横幅を可変にして異なる画面幅での表示に対応します。必要に応じて見出し は縦書きにします。



等分割な列の横幅を可変にする。

レスポンシブテーブル その 2:横スクロールで表示する(見出しは固定)

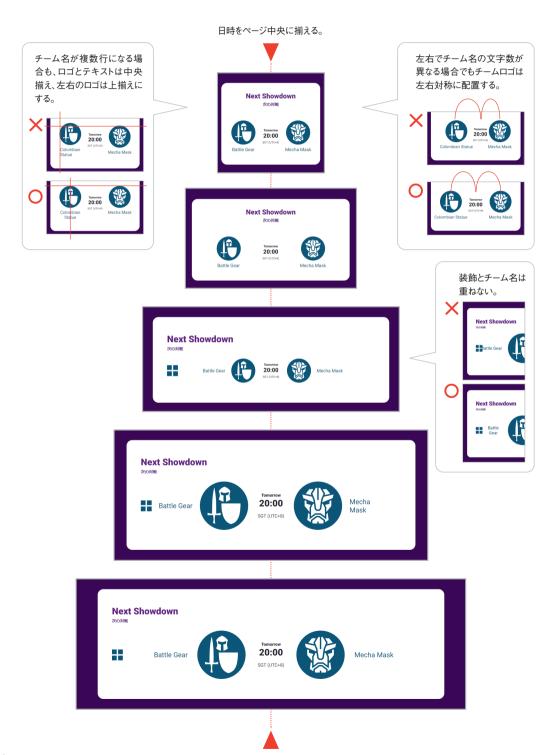
その1で対応できない画面幅では横スクロールで閲覧できるようにします。このとき、左端の見出しは固定し、データのみがスクロールするようにします。



左端の見出しは固定。

左右対称を維持したレスポンシブにする

対戦カードは日時を中心に、チームロゴを左右対称に配置した形でレスポンシブにします。



テキストと画像の比率が自動調整されるレスポンシブにする

ヒーローのタイトルと画像は 1:1 の比率で横並びにしてレイアウトします。 ただし、タイトルには不要な改行を入れないようにするため、 1:1 を基準にしつつも、必要に応じて比率を崩してレスポンシブにします。 調整は Flexbox の伸長・縮小の自動処理に任せます。



横幅に応じて横に並ぶ画像の数が自動調整されるレスポンシブにする

SNS メニューは横幅に応じて横に並ぶ画像の数が自動調整されるように設定します。













ヒーローイメージはフォーカスインのアニメーションで、 タイトルはスライドインのアニメーションで表示する

背景のヒーローイメージはフォーカスインのアニメーションでじわっと表示し、タイトルは 行ごとに下からスライドインするアニメーションで表示します。













レイアウトシフト(CLS)が発生するのを防ぐ

ヒーローでは画像と Web フォントによる大きなレイアウトシフト (CLS) が発生し、アニメーションの表示に悪影響を与えます。これを防ぎ、後続のコンテンツの表示位置に影響を与えないようにします。





| レイアウトシフトで後続のコンテンツ の表示位置が変わります。





後続のコンテンツの表示位置 は変化しません。